



オガもい通信

No. 13



小笠原村環境課 04998-2-2270

土の生き物観察会

(2023年8月26日)

今回は、今までと趣向を変えて「土」をテーマにした生き物観察と作業体験を参加者・スタッフ計33名で行いました。生き物観察では、地面や朽木にすんでいる生き物を探索し、観察しました。

生き物の講師の自然研からの解説



見つけた生き物は白いトレーへ



自然研の解説を子どもも真剣に聞き入る

土の中の小さくて大きな生態系を覗いてみよう！
右写真のような生き物が見つかるかも？！



分解者を食べる捕食者

イッスンムカデ

トガリクサチヒメグモ

落ち葉や枯木を分解する分解者

ゾウムシの仲間

ミナミワラジムシの仲間

写真：自然環境研究センター

その後は、**バイオネスト**づくりを行いました。

主材料がアカギ、アレカヤシの班に分かれ、それぞれの班ごとに3つの隊に役割分担して作業しました。



Q **バイオネスト**とは？

ギリシャ語の生命体を意味する **BIOS** と、鳥や昆虫などの巣を意味する **NEST** から発想された造語

- ・森の手入れで発生する枝葉や草木の捨て場
- ・生き物のすみかにもなる
- ・上手く作ればモニュメントに

ちょうたつしたい調達隊 ① アカギ

周りの小さなアカギの伐採から

集めてきた材料を組みやすいように選別したり短くしたり…

アレカヤシの調達は重いな～。

しわけたい仕分隊 ① アカギ

アカギ バイオネスト班

ちょうたつしたい調達隊 ② アレカヤシ

しわけたい仕分隊 ② アレカヤシ

くみたい組隊 ① アカギ

木の曲がりやを上手に使って編むように組んでいきます。

円形に打ったアレカヤシの杭を土台に組んでいきます。

完成記念に中に入ってハイチーズ♪

アカギ バイオネスト 完成！

記念写真の後は、アカギの葉っぱやアカギの幹のチップを投入

くみたい組隊 ② アレカヤシ

アレカヤシ バイオネスト 完成！

アレカヤシ バイオネスト班



オガもい通信

No. 14



小笠原村環境課 04998-2-2270

沢を身近に感じ隊 集合!

(2024年2月24日)

前回に引き続き今回も「生き物」!
「沢」をテーマにした生き物観察と
作業体験を参加者・スタッフ計29名
で行いました。
その沢に行く前に…
ムニンノボタンを4株植樹しました。

ムニンノボタンは
種の保存法の指定種のため、
許可を受けた人しか苗が扱え
ませんが、皆さんには穴掘り
や水やりを手伝って
もらいました。



長谷の沢の生き物たち

2023年に
新種記載された
“父島固有種”
通称：泳ぐダンゴムシ
丸まれます♪

植樹の後は、たいよう畑（オガグワ
植栽地②）を越えて沢にくんだり、オガヨシ
広場で生き物観察開始です。



今回も生き物マスター
自然研からの解説



沢沿いの開拓もしました。

オガグワボックス
再開しました。
メニューはカフェオレ、
みそスープなどなど



沢の水をすくってみると、ヌマエビがこんなにいます。



イベント後にスタッフで少し残業し、
開拓で出た枝葉をまとめてバイオネットに



水面近くに巣をはって、
アメンボなどを待ち伏せ中…

長靴・ギョサンで
沢に入って果敢に探索



生き物 ♥ な皆さん



ヤサガタアシナグモ

2023年度の冬～春のオガもり

暑い日は屋外作業には不向きです。小笠原の暑い日は秋まで続き、11月頃になるとやっと涼しくなり、4月くらいまで作業に適した気候が続きます。その期間を狙って、歩道の補修、駐車スペースの草抜きといったオガもりの手入れをしました。

年に1回行っている苗の計測では、マルハチが苗のすぐ近くから生えてきたり、主幹が枯れてしまったり、カイガラムシ、すす病などなど、全て順調に生長しているとは言えませんが、どっこい生育中です。



葉脈が茶色くなったオガグワの葉 (原因不明)



歩道に使っていたアカギが朽ちてしまったので、石の階段に補修



道づくりに欠かせない石運びはやっぱり重労働

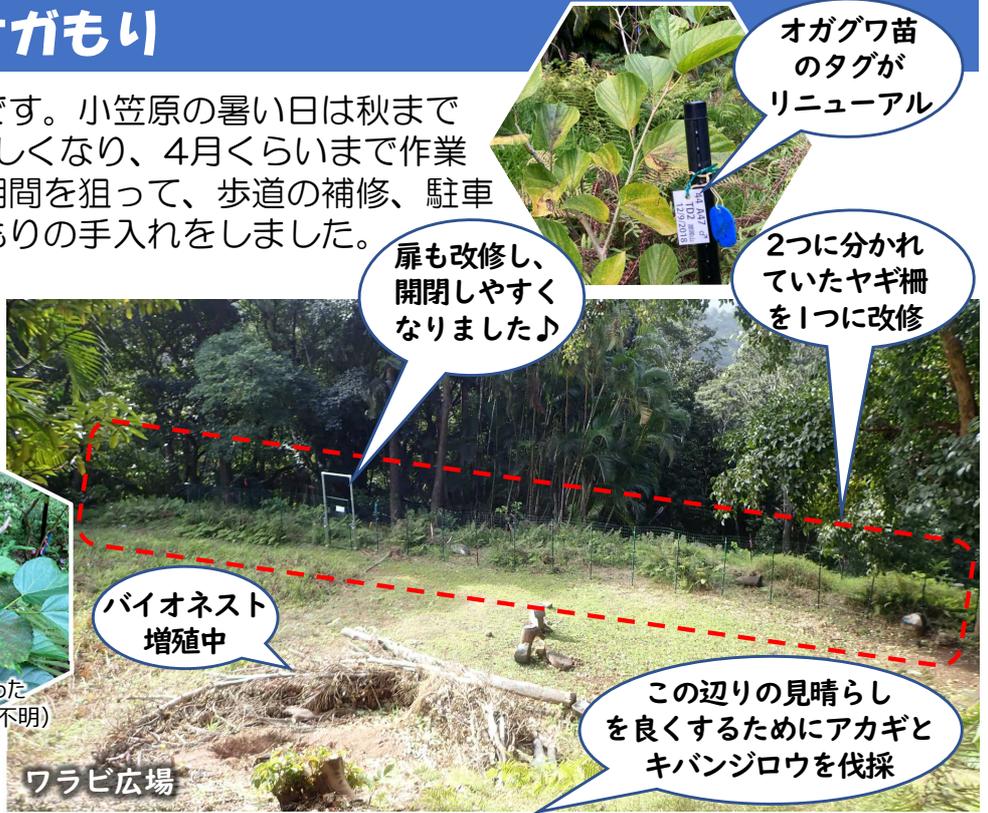


太枝を伐った跡

このアカギの太枝と石を使って道を補修



階段脇にもバイオネスト



オガグワ苗のタグがリニューアル

扉も改修し、開閉しやすくなりました♪

2つに分かれていたヤギ柵を1つに改修

バイオネスト増殖中

この辺りの見晴らしを良くするためにアカギとキバンジロウを伐採



レモンとシマホルトノキまわりがすっきり

農大ボランティア部による作業 (2024年2月22日)

東京農業大学ボランティア部が約4年半ぶりに来島し、作業を手伝ってくれました。



地面を覆う外来草本アメリカハマグルマ抜き



駐車スペース脇のダンチク伐採



駐車スペース奥にムニンノボタンを植える場所づくり



刈ったダンチクと抜いた草でバイオネストに



オガもり通信

No. 15



小笠原村環境課 04998-2-2270

オガグワ植樹会

(2024年5月11日)

今回は久しぶりに植樹会です。しかも“オガもり”の冠となっているオガグワことオガサワラグワの植樹を参加者・スタッフ計26名で行いました。

植樹場所は柵で囲われたエリアのちょうど真ん中★です。キバンジロウというグアバの仲間の外来樹木が繁茂していたので、イベント前にスタッフで伐根し、地ならししておきました。

村は茨城県にある
森林総合研究所の林木育種
センターとオガサワラグワの遺伝資源
を保全するための覚書を締結し、植栽共同
試験を行っています。今回植栽した20本の
苗は、この覚書により提供を受けた
父島由来のクローン苗です。



みんなで植えれば、あっという間



開会挨拶

ムニンノボタン
は種の保存法の
指定種のため、許可を
受けた人しか苗が扱えま
せんが、皆さんには
穴掘りや水やりを
手伝ってもらい
ました。



オガグワ ♡ になった皆さん



歩道整備前



歩道整備後
2025年1月



オガグワ植樹が
すぐ終わったので、
小笠原固有の低木
ムニンノボタンの植樹

歩道補修と整備を今冬も
行い、マルハチの谷（植栽
地①）→★→たいよう畑
（植栽地②）をつなぐ道を
新たに作りました。是非
歩きに来てください♪

農大ボランティア部による作業

(2024年9月10日、2025年2月19日)

東京農業大学ボランティア部が、今年度は夏と冬に2回来島し作業を手伝ってくれました。



9月

今回も刈ったダンチクと抜いた草でバイオネストづくり



9月



2月

ダンチクが刈り払われ見通し◎



オガもい通信

No. 16



小笠原村環境課 04998-2-2270

オガグワ守り隊集合!

(2025年3月1日)

オガグワの森のオガグワは、虫や病気やネズミの被害に遭いながら、なんとか生育しています。ただ、生長具合はあまり良くはありません。そこで、今回はオガグワの生長を促すための手入れを参加者・スタッフ計29名で行いました。



デモンストレーション

オガグワの根っこの通気性を良くするため、①株まわりに10カ所ほど深さ20cmくらいの穴をあけ、②そのうち3カ所の穴には肥料を入れました。



子どもたちも手伝い、皆さん黙々と作業



オガグワ ♥ になった皆さん

休憩時には野点お茶会をしました。



舞台を整え、茶道具を準備し、竹田先生にも来ていただき、青天のもと、本格的なお茶会に



先生の華麗なお点前
てまえ



順番に「お点前頂戴いたします。」

農大ボランティア部による舞台準備 (2025年2月19日)



作業後にオガもりの道をぐるりと歩いたら、途中の階段脇でランが実をつけていました。



葉緑素を持たず、共生菌を通して落ち葉などから養分を得ている小笠原固有の腐生ラン

ムニンヤツシロラン出現!



←立派な舞台
築は...→



完成後に仲良くランチ

